



[京の街道とその周辺]

忠臣蔵四十七士行列から続く
山科義士まつり

歴 2-06 (R03)

平安時代に天台宗の寺院として創建された岩屋寺は、西南に接する山科神社の神宮寺で、大石内蔵助が討ち入り前に1年ほど過ごした閑居地であることから、別名「大石寺」ともいわれています。本尊の不動明王は、大石内蔵助の念持仏でもありました。

表門をくぐると、正面に建つ本堂は、入母屋造平入り、棧瓦葺きで、前方に向拝がつき、大屋根妻面には狐格子をはめ、破風、鰭付き懸魚で飾られています。これらは、信長の兵火などにより幾度か焼失した後、曹洞宗寺院として嘉永7年(1854)に再建されたものと伝えられています。

毘沙門堂に安置されている毘沙門天は鞍馬寺より寄贈されたもので、毘沙門堂とともに移されたといわれています。

庭に設けられた池中央の島には、大石辨財天が建ち、春先には内蔵助が手ずから植えた紅梅が花を咲かせます。

庭の奥建つ茶所は、大石内蔵助邸の古材を使って造られました。

昭和31年、東海道線の電化を記念し、山科区内を大石内蔵助など忠臣蔵四十七士に扮して練り歩いたイベントがきっかけで、毎年12月14日に「山科義士まつり」が開催されるようになりました。義士に縁のある寺社を巡るこの祭りには、全国から忠臣蔵ファンが集まり、年々人気を博しています。



参道



毘沙門堂内



〒612-8046 京都市山科区西野山桜ノ馬場町96

電話番号 075-581-4052

アクセス 京阪バス「大石神社」徒歩10分